

CONTENTS ◆1年の総決算!6月例会開催 ◆特集シリーズ 中央会スペシャル

●県会長挨拶 ●ビジネス経営委員会・広報委員会オープン委員会 ●中央会スペシャルを終えて ●会長連載「Spur」

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 秋里武信 ◆編集責任者/担当 副会長 権田和志 ◆制作・編集 第44期広報委員会/委員長 恵比木 健

## 1年の総決算!!6月例会開催 45期方針発表!!



令和元年6月14日(金)ふれあいの里大会議室に於いて、第44期の集大成となる6月例会が開催された。冒頭会長挨拶では、一年前に同会場にて行われた年度方針発表を思い起こされ、時の経過の速さと活動を支えてくれる人の大切さ、そして一年間全力で駆け抜けた各委員長への感謝の気持ちと労いの言葉が贈られた。また期中に諸事情により退会された水野元委員長との電話での会話を披露され水野元委員長からの中央会への感謝の想いを代弁された。

続いて新入会員バッチ授与が行われ、前田会員、高見会員、棕野会員の3名が今後の活動への抱負を述べた。



45期年度方針発表

そして行われた第44期委員会報告。広報委員会の恵比木健委員長、ビジネス経営委員会の中村友紀委員長、地域ビジョン委員会の山内正樹委員長、総務・45周年記念事業委員会の足立駿委員長、政治行政委員会の安達信彦副委員長は、各副委員長からの想いのこもったメッセージと委員会メンバーからの送り出しを受けて壇上へ上がり、各委員会の1年間の活動について報告した。発表の場へ向かう委員長を見守るメンバーの目の温かさ、そして壇上から委員会メンバーを見つめる委員長の表情が一年間の活動を共にした絆と充実感を物語っていた。そして発表を終えた各委員長は秋里会長、担当副会長と固い握手を交わし委員会報告を締めくくった。



続いて、第45期山口会長の年度方針発表が行われ、次年度のスローガン「考動」、活動テーマ「僕らの前に道はない 僕らの後ろに道はできる」が掲げられた。「中央会には何も無い。でも自分次第ですべてが有る場所だ」というOB会員からの言葉を紹介され、「45年間受け継がれてきた思いを基に、第45期は全会員で『しっかり学び考え、勇気をもって行動する』という活動をしていきたい。そして第45期会長としてその先頭をしっかりと歩んでいきたい」と力強く発表された。

そして第45期活動の柱となる5つの委員会、「総務委員会・住真介委員長」、「広報委員会・渡邊公平委員長」、「継続準備委員会・石田倫章委員長」、「政治経営委員会・松田順次委員長」、「地域ビジョン委員会・小谷泰樹委員長」が発表され、各委員会の年度活動方針が説明された。つづいて壇上に第45期の役員一同が紹介され、5名の委員長からは来期への意気込みが力強く発表

された。熱い余韻を残し閉会となった6月例会は、秋里会長の掲げられたスローガン「使命感」のもと全力で活動してきた第44期を締め括り、45期に向け今後の中央会の更なる飛躍のための道のりへの第一歩となる素晴らしい例会となった。

(記事:福山)



## 県事業 1年を振りかえって

鳥取県中小企業青年中央会 会長 濱田 修

県会長として今期をその序幕から振り返ると、昨年2月に西部で県会長候補として承認頂いた後、期のテーマを決めることが大きな課題でした。2月中旬にテーマの『共鳴和音』を考え、基本方針もほぼ書き上げたものの、それで本当に良いか決断するのに1カ月半要しました。並行して3月には県の臨時総会で正式に県会長として承認頂き、4月以降、各地区と調整を図りながらスケジュールを組み進めました。堀尾県専務理事との連携作業も始まるなか「結構大変ですね」と言われ、「総会までの我慢だから」と返しましたが、結局は最後の最後まで堀尾さんにはずっと苦勞をかけてしまいました。

9月開催の委員長・副委員長交流会は期が始まる前の6月に企画案を出す必要があった為、一番口出しをしました。その際の拠り所としたのは自身のテーマと基本方針であり、そこからヒントを得ることができました。

私的なことで恐縮ですが、県総会の一月前に父が突然体を悪くし、その後危篤状態になった為、県総会を無事に迎えることができるか不安でした。総会当日、懇親会での挨拶は会員の皆さんの顔と目を見渡しながらも、半分はその場にはいない父に聞かせるつもりで言葉を発していました。3日後に父は他界しましたが、葬儀には西部のみならず東部、中部からも参列に駆けつけて頂き、これまでに経験がないほど有難い思いを致しました。

いざ期が始まってみると、心配していた地区間の温度差、摩擦などの問題は全くなく、肩透かしを食らうほどすんなりと役員会が進行していきました。逆にもっと会議で揉めても良いのでは？と思うこともありましたが、各地区協調性があり、県役員が皆、個性があらながらも非常に良いバランスだったと思います。

唯一惜しかったと思うのは11月の親睦事業の開催時期です。当初はもう少し早い時期、若干違う内容を考えており、入念に調整したつもりでしたが、私の詰めの甘さが出た結果となりました。但し、事業自体はガイナール鳥取様のご協力もあって大成功でした。そして続く3月のビジネス教育事業も北沢先生のご講演が多く、多くの会員から好評を博し大成功となりました。一方で、今期に限らず、年度を通じて参加する会員が今一つ少なかったことは事実ですし、残念です。

県青中では毎年、年間活動報告書「はばたき」を作成しておりますが、近年は一般会員が目に見えない状況にあります。今期の最後にそれを改善しようと取り組みをしておりますので、皆さんが閲覧できる環境を整え、ぜひご覧頂きたいと思っております。

最後に秋里会長をはじめ、県事業の為に各地区を取り纏め頂いた各県副会長、県出向役員の皆様、そして一番苦勞をお掛けした堀尾県専務理事に感謝の意をお伝えし、筆を置かせて頂きます。全ての会員の皆様、県事業へのご協力、ありがとうございました。



## ビジネス経営委員会 6月オープン委員会開催



中村委員長率いるビジネス経営委員会は、6月6日に全会員を対象としたオープン委員会を開催されました。

講師として、田中義晴氏（税理士・MBA経営学修士）を迎え、『人口減少の中で勝ち続ける商売とは』というテーマに沿って、人口減少によるビジネスモデルの変化と、その対応策についての講義がなされました。

前半は、統計上の観点から今後人口減少は確実に訪れ、人口が右肩上がりであった昭和の頃のビジネスモデルはすでに破綻しているという事実を。後半は、その中で中小企業が勝っていくには『情報』という武器を如何に用いるか、そしてそれを利用した新しいビジネスモデルを模索し続ける事が重要である、という事をお話頂きました。

時折、ご兄弟にあたる田中健雄会員に関する冗談や、身近な中小企業の新しいビジネスモデル実例を交え、軽快な語り口で進められた講義はとても聴きやすく、もちろんその内容は我々中小企業の経営者にとって重要であり、大変に有意義な時間となりました。

(記事：石田)

## 44期広報委員会「ブランド戦略基調講演」開催

令和元年5月30日(木)、米子市福祉保健センターふれあいの里にて44期広報委員会主催の「ブランド戦略基調講演」が開催された。

秋里会長は冒頭の挨拶で「ブランディングという手法を広く知って頂き、ブランド戦略を企業全体で取り組む為の推進策になればという恵比木委員長の想いにより、今回は会員所属企業の皆さまにもご参加頂く機会となったので是非一緒に勉強してほしい」と述べられた。

12月例会に出席された多くの会員に好評だった中小企業のブランディングについてより深く学ぶ為、引き続きスターブランド株式会社 粉奈 健太郎氏にご講演頂いた。前半ではディスカッションや事例を交え、ブランディングとはどういうことか、また何をすることを分かりやすく説明して頂いた。後半では別の事例を交え、ブランディングにおいてデザインよりも大切なこと、中小企業におけるブランド戦略のゴールはどこなのかを学んだ。粉奈氏の徹底した「世界観」に、会場にいる全員が魅了されたオープン委員会となった。

(記事：宇佐見)



# 中央会スペシャル

File.09

## 「U35の未来予想図」(後編)

語り手(U35会員)

長谷川恵一、新井翔太、足立鷹大  
金子賢之、上田和人、徳中太慈

企画構成 青戸(リーダー)、石井、濱田、上村、石原

会員減少に危機感を募らせる中央会。これから10年以上、中央会を背負って立つ貴重なU35(35歳以下)のメンバー6名にご協力いただき、それぞれが考える中央会の現在について前編では語っていただきました。後編では「10年後、卒会を迎えるころの中央会」を想像し、どうあって欲しいか、今自分たちにできることは何か、これからますます進むであろう会員減少の対策について、議論していただきました。

### 「会を知ってもらおう環境づくり、守るもの、変えるべきものの判断を」

—10年後に皆さんが卒会を迎えるころ、中央会はどうなっているでしょうか。また、どうあってほしいか教えてください。

上田和：私、10年後はまだ39歳ですね。

皆：55周年ではバリバリの現役…え！60周年の時もですね！

新井：当然、会の存続は目指したいです。さらに会員数100人は維持していきたい。40歳手前で入会される方が多いから、もっと若い方が入ってこれる環境をつくっていききたいですね。

上田和：若い方は求めていきたいです。実際勉強になるし、やったことが何倍にもなってかえってくるのは実感しているの、若い人にもっと知ってほしい。

長谷川：これから入る人が何を求めているか、ですよ。経済的なことを勉強したいとか、或いは単に人脈を求めている人もいると思います。色んな人を取り込むことも必要、且つブレないことも必要。人だったり、事業だったり、ひとつひとつの魅力でどう中央会を組み立てるのか、「中央会ってこうだよ」と固執しすぎるのは危ういと思います。時代に合うかどうかも含め、崩していくところ、守るところを判断するのが私たちの世代ですよ。

足立鷹：変えるべきものは変えていかないとはいけませんが、歴代の方々が積み重ねられたものは10年後も守っていききたいですね。この年齢ではできることできないことがあるけど、10年はあつという間だと思うので、今のうちに将来の為に失敗を恐れずに挑戦することは大事じゃないかと思います。

金子：他団体と比べても、100人弱を維持して例会出席率80%以上というのはすごいことだと思います。ただもっと「中央会の絆やばいな」みたいなのが欲しいんですよ。意義のある良い会だということをもっと

知ってほしいから、もっと外に向けて出していきたいんですけど、例会を一般参加もOKにすればいいかというところ、難しいところでもあります。目的を持って入ってきてくれる人だと本来は良いですけど、大半がそうではないですよ。現状も、誘われたから入った、そういう人が多いです。

徳中：私も入会して良さがわかったんですよ。勉強になることがたくさんあるので、誰でも一度は触れられるような機会をもっと作っていきたいですね。触れてみないとわからないものはあるからどんどんオープンにしても良いのかなと思います。でも「無理して出なくていいよ」とかそういうところは、変わらず厳しい目でも見ていかないとはいけません。



### 「大山お地蔵さまフェスティバルを会員拡大に繋げたい」

—中央会の認知度を上げ、若い世代に入会したいと思われる会にするにはどうしたらいいと思いますか。

足立鷹：例えばスポーツに力を入れる、野球部やサッカー部で社会人全国大会を目指しましょうとかどうでしょうか。「中央会入って野球しよう！」って、スポーツで盛り上げていくのもいいかもしれません。

金子：中央会カップを主催するとか！トライアスロンだけでなく、中央会といえばコレというものがあると説明しやすい誘いやすいから、そういうものが欲しいです。

長谷川：あの事業と一緒にやりたいとか、何か目的があると入りやすいと思います。そういうのを今のうちに作っておかないといけません。中央会の良いところは、幅広い年齢の方と事業や学びを共有できることだと思うので、年上の方たちと交流したいとか、学びたいという環境を求めている人を捕まえたいです。スポー

ツもキャッチする方法としてはすごく良いけれど、そのあとにしっかりしたものがないと厳しいですね。

足立鷹：歴代のOB、先輩方には有名な経営者がたくさんおられますよね。そういう方たちが尽力されて、会は続いてきたと思うんです。今後もっと認知度を上げていこうと思ったら、今はお地蔵さまフェスティバルに注力して、会の名前を前面に出していくのが良いと思います。

皆：私たちもこの地域でそんな人間にならないといけませんね！

新井：「この人がいるから」「この人と一緒に勉強したい」という動機で入られる人もあるでしょうから。

長谷川：年に数回開催されている他団体イベントもありますよね。一年に一回だと認知に時間がかかるのかもしれない。準備も大変ですけど、他に何かもつというのも

ありかもしれないですね。また、所属企業にもPRの場をと考えれば、お地蔵さまフェスティバルで各企業がブースを出せばいいと思います。飲食ブースだったり、売りたいものがある人は売ればいいと思いますし。「出店できる企業だけ手厚いよね」という話になると別ですけどね。

**足立鷹**：やっぱりお地蔵さまフェスティバルに注力していきたいですね。

**上田和**：何年もやっていって浸透していくと思います。

**金子**：今開催してるスペースでは収まりきらないくらいの規模にしたいですね。

**新井**：「大山」と「お地蔵さま」というテーマは大事にしていきたいです。

**長谷川**：お地蔵さまフェスティバルは子どもに対してアプローチできるから良いですね。子どもたちが育って働くようになってからも、この鳥取県西部にいてもらわないと私たちの事業も成り立たないし、「将来的に地元経済に繋がってくるイベントです！」ってPRするとわかってもらえるのではないのでしょうか。せっかくははじめたイベントなので、これをどんどんアピールして歴代の委員長の思いを伝えていきたい。そして会員拡大のきっかけにもなるよう育てていきたいです。

後10年以上会を背負っていく若いメンバーが真剣に中央会の未来を想像し、議論してくれました。先輩方が作り上げられた伝統を守りつつ、時代に合わせて変わらなくてはいけないときもくる、ただ入会の間口を広げれば良いというわけではないという葛藤。会員拡大はこれからも中央会の大きなテーマであることは間違いありません。同世代とはいえ会歴は様々で、こうして集まって議論するのも新鮮で良い機会だったと言ってもらえました。U35メンバーをこれからどんどん増やしていきたいですね。OBの皆様、これからも現役メンバーは会員拡大に力を入れて、ますます繁栄していきたいと思います。ご協力よろしく願っています。

会長連載

*Spur* ~シュプール~  
第44期 会長 秋里武信

軌跡

第44期も6月を迎え昨年9月から始まった連載も最終章となります。

連載を読んで気づかれた方も多と思いますが、ほとんどが身近な方からいただいた言葉の話です。色々な言葉に、心打たれたり、気づきを得たり、背中を押されたり...その積み重ねが今の自分に繋がっています。

入会した時、確固たる自分を持った先輩方を見て憧れ、そうなるために、どうあるべきか？何をすべきか？と考えた事があります。当然、その時は答えなどわかりません。しかし、様々な言葉に囲まれ、その中の信じた言葉に身を委ね行動していれば、徐々にですが自分のあるべき姿が見えてきたように思います。

年齢とかは関係なく、同じ立場、似たような境遇を経験された方の言葉は、熱く心に突き刺さるものです。それらの言葉があったからこそ、会長という大役も果たせたのかなと、今は感謝の気持ちでいっぱいです。1年間、本当にありがとうございました。

中央会スペシャルを終えて

第44期広報委員会 委員長 恵比木 健

皆さま、第44期広報委員会がお届けした全9回連載「中央会スペシャル」楽しんでいただけたでしょうか。周年のイヴェイヤーだからこそ「過去を知り、新しきを取り入れ、未来を確立する」をテーマにタイムリーな話題を積極的に取材を行い、思い切って大きく紙面を取り、我々の意見を織り交ぜながら皆さまに提供してきたつもりです。私は委員長としてすべての取材に同行しましたが、それはとても貴重な時間でした。特にOB会員の皆さまへの取材では、昔話を楽しくそうにお話いただく姿がとても印象的で(決して記事にはしてはならない裏話の方が多かったです笑)、中央会にいる自分のことをなぜか誇らしく思いました。ご協力をいただいた皆さま、ありがとうございました。

会員減少をはじめ、諸問題を抱える現在の西部青年中央会。「時代に合わせて変わる」ことが問題解決法かもしれませんが、ただ簡単に「変わる」を振りかざすことは危険です。理由があるから続いている44年という長い歴史の中で「なぜこれがそうになっているのか」という背景を理解した上で議論し、熟考を重ねた判断が必要であることに間違いありません。そういう意味では現役会員にとって歴史や伝統はただただ重荷になるかもしれませんが、今回様々な取材を通して感じたことは(すべてがそうとは言いませんが)、意外と単純な「とりあえず楽しそうだから」のような理由が物事の始まりだったりすること、そして、それが継続していくうちにいつの間にか様々な重たい理由をまとい「歴史や伝統」になっていること、です。それらを自分たちで勝手に深い意味を持たせているのかもしれませんが、ただ、私はそれが悪いこととは思いません。なぜなら本当にムダなことには続いているはずがなく、続くことは議論を重ねた結果であり、むしろそのプロセスは有意義なことだと思います。危険なのは何も考えずに「そういうものだ」と自動的に続けること。自分たちが行っていること理由や背景を知り、時代に合わせて議論をすることこそが健全な姿であり、そこで起きる変化こそが進化なんだろうなと思えました。もしもそのような話題提供が「中央会スペシャル」で出来ていたら幸いです。一年間お付き合いいただきありがとうございました。

〈新入会員〉

**谷村 祐也** A型  
美保テクノス株式会社 営業部 主任  
総合建設業  
〒683-0037 米子市昭和町25番地  
TEL 33-4409 FAX 35-2672  
(KT) 080-5616-2694  
(EM) y.tanimura@miho.co.jp  
S55.01生

(総務委員会)  
R1.06 (H31年度) 入会 (推薦者) 中村(友) 橋本(真)

〈コメント〉この度、ご縁があり入会させて頂きました谷村祐也と申します。2018年に転職を決め、米子市に戻ってきました。多くの方と交流を深め、自分になかったものを新たに取り入れ成長に繋がりたいと思っています。また、地域の発展のお役に立てるよう取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしく願っています。

**棕野 寛基** O型  
株式会社プロトコーポレーション 所長  
車販売の広告営業・コンサルティング  
〒683-0802 米子市東福原1丁目22 米子ウエストビル4F  
TEL 31-6700 FAX 31-6703  
(KT) 090-4655-2590  
(EM) mukkusuan1201@yahoo.co.jp  
S61.12生

(継続準備委員会)  
R1.06 (H31年度) 入会 (推薦者) 住(真) 濱(真)

〈コメント〉この度はご承認頂き誠にありがとうございます。人格形成は人脈作りからだと思っております！年齢より見た目が先行しておりますが、人生の肥やしに、また基盤作りにも色々勉強させて頂きたく思いますので宜しくお願い致します。

編集後記

44期広報委員会制作のハンサムはこれで最後です。最後まで思いを込めて制作してくれたメンバーに感謝。そして取材や原稿執筆にご協力頂いた現役・OB会員の皆様、東京印刷の木下さんや事務局の西村さん、その他制作に関わっていただいた全ての皆様に感謝致します。そして読者の皆様、45期も引き続きハンサムをご愛読いただきますよう、よろしくお願い致します！！

(第44期広報委員会 副委員長 小谷 泰樹)

7月新旧役員会報告

令和元年7月1日(月) ANAクラウンプラザホテル米子にて7月新旧役員会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

- ・45周年記念事業の件
- ・平成30年度収支決算、令和元年度収支予算の件
- ・8月例会開催の件

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。